

第一回日本渡航医学会薬剤部会準備委員会議事録

開催日時：平成 27 年 7 月 25 日 17：00～18：00

開催場所：東京女子医科大学 弥生記念講堂地下 1F 臨床講堂 2

参加者：太田 聡子（大阪市保健所）
小谷 宙（慶応義塾大学病院）
櫻井 眞理子（医療法人拓生会 奈良西部病院）
長谷川 充（東京高輪病院）
藤澤 宗央（成田赤十字病院）（五十音順）

古閑 比斗志 理事

櫻井 立良 評議員

- 議題
- ① 日本渡航医学会薬剤部会規約作成について
 - ② 委員あるいは世話人、顧問の選出について
 - ③ 今後の事業計画について

- 決定事項
- ① 看護師部会、歯科医師部会に準じて作成する。
 - ② 発起人は今回参加者である 5 名
顧問の先生の選定については濱田理事長にご教示願うこととする
 - ③ 薬剤師部会・薬剤師交流会は基本的に東京開催とする。
薬剤師部会・薬剤師交流会は年 1 回以上開催し、最低学術集会時は行う。
会の開催は基本的に土曜日あるいは日曜日とする。
薬剤師部会独自のメーリングリストを作成し、連絡事項等はメーリングリストで行う。
非会員薬剤師に対してもオープンにしたセミナーの開催は定期的に行い、会員数のアップを計っていく。

- 懸案事項
- *薬剤師部会の人数を増やす為、各自所属医療機関や渡航医学も関連するであろう学会で、積極的に当学会の紹介を行っていく。
(一例：日本エイズ学会)
 - *薬剤部会で取り上げる内容についてはセミナー開催時にアンケートを行い、次回へつなげる形をとってはどうか。

* 勉強会はワクチンのメーカーや学会の先生方にも協力を求めて充実したものにする。

輸入ワクチンを新規で扱うにあたっての手続き、管理法も取りあけて欲しい。

* 渡航医学に関する薬剤師の立場から見た調査研究

(各国の薬剤・薬局事情の調査、海外からの渡航者からみた問題点)

渡航する企業人とその帯同家族の海外での薬の購入方法問題に対する情報提供を検討。

また、在日時服用薬を渡航先で現地の薬にスイッチする方法も今後の調査研究として必要と考えられる。

海外の薬局では薬剤師がワクチンを打っているケースもある。

医療事情の違いによる薬剤師の業務内容が各国違う。

一説によるとアメリカではトラベルクリニックより街中の薬局でワクチンを接種する患者が圧倒的に多い。

アウトバウンドのみでなくインバウンドの研究も必要ではないか。

(インバウンド・・・在日外国人、外国人旅行者、医療ツーリズム)

* 部会員の人材育成

認定医療職の取得

定期的な研究会

東京医大病院、国立国際医療センターなど日本における主要渡航医療機関への見学会を提案。

* 国際交流の推進 (ISTM 薬剤師部会への参加)

現在 ISTM に参加している日本人薬剤師は少ないが ISTM では薬剤師部が活発に活動を行っており、定期的に CP を介し世界中のメンバーと交流会を行っている。当部会もこれらに参画していきたい

* 新薬 (ワクチン・予防薬を含む) の紹介、啓発。

新薬に関してはメーカーに協力してもらい勉強会など開く。

啓発に関しては一般薬剤師への定期的セミナー開催などを検討。